

比の台風被害 死者不明596人

【マニラ2日共同】フィリピン・アルバイ州で、台風21号による豪雨により起きた泥流被害で、同国防省は二日、死者は三百三人、行方不明者は二百九十三人の計五百九十六人に上ったと発表した。

同国赤十字は一日に三百八十八人の死者を確認

したと発表した。二日になって死者百四十五人、行方不明者二百九十四人と訂正した。国防省、赤十字ともさらに数百人が行方不明となっている可能性があると述べている。

現地からの報告によると、最も大きな被害を受けた場所の一つ、ビニタ

ヤン村では、直径三メートルの岩があちこちにころがり、家屋が屋根近くまで泥に埋まっている。国軍兵士らが救助活動に当たっているが、難航している。

日本政府は二日、テントや毛布など約二千万円相当を緊急援助すると発表した。

AMDA職員 比到着

被災者
支援へ

台風の大雨により、多数の死傷者が出たフィリピン中部の被災者支援のため、国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市櫛津）の職員館野和之さん（四四）岡山市が二日、岡山から関西空港経由で首都マニラ入りした。

薬品や食料品などの生活物資をマニラから調達したり、現地の医師を集めて医療支援態勢を整える。出発に当たり「詳しい被災状況を調べ、必要な支援にあたりたい」と話した。

館野さんは、別の事業で現地に滞在しているAMDA調整員と合流。医

現地では十一月三十日にアルバイ州を直撃した大型台風の影響で、マヨン火山周辺の火山灰が泥流となってふもとの村へ

流れ込んだ。フィリピン赤十字は一日夕までに三百八十八人の遺体を確認。停電で通信網が切断されている上、現場はぬかるみ、軍の救出活動は難航しているという。

（水嶋佑香）